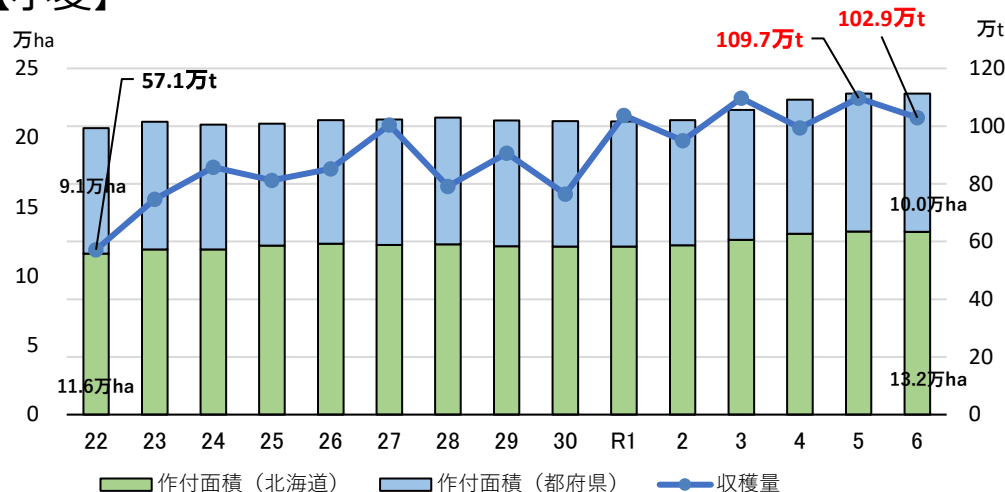


麦の作付面積・生産量

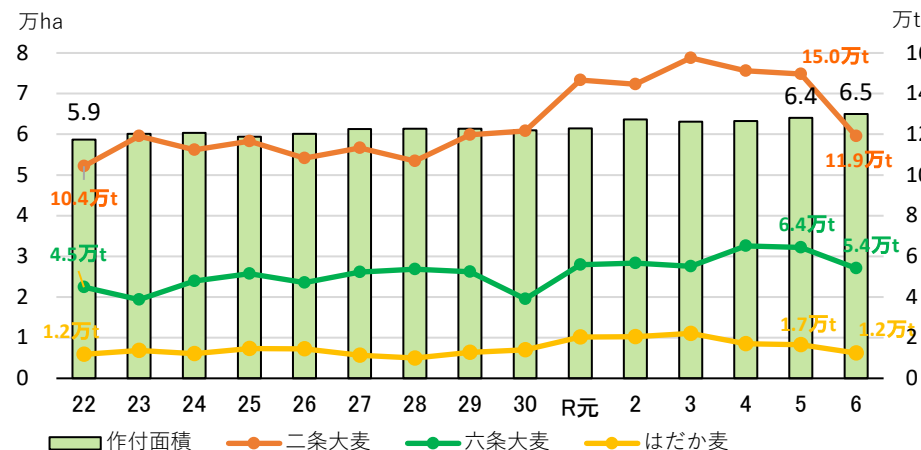
- 小麦の作付面積は近年増加しており、収穫量も増加傾向。令和6年においては**102.9万トン**となっている。
- 大麦の作付面積はほぼ横ばいで推移しており、収穫量は天候不順となった令和6年産を除き**約23万トン**で推移している。
- 単収は収穫期の降雨等の天候の影響を受けやすく、年次変動が大きい。

【小麦】



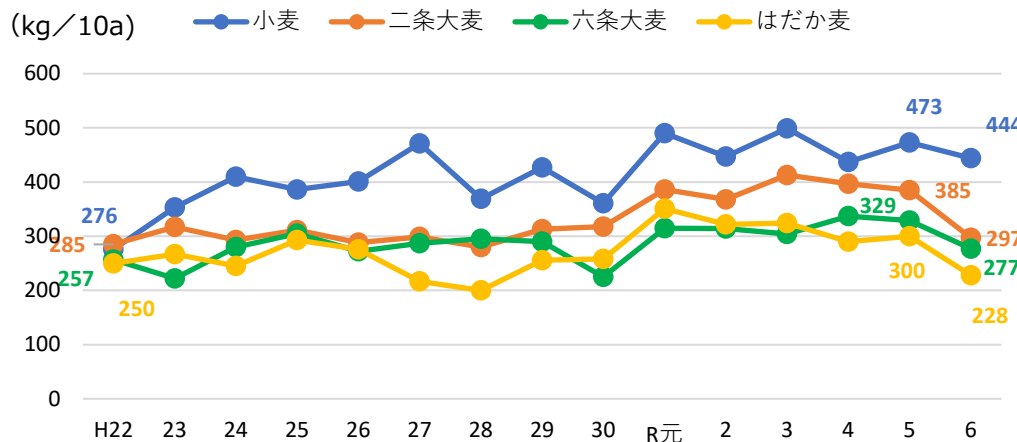
資料：作物統計

【大麦・はだか麦】



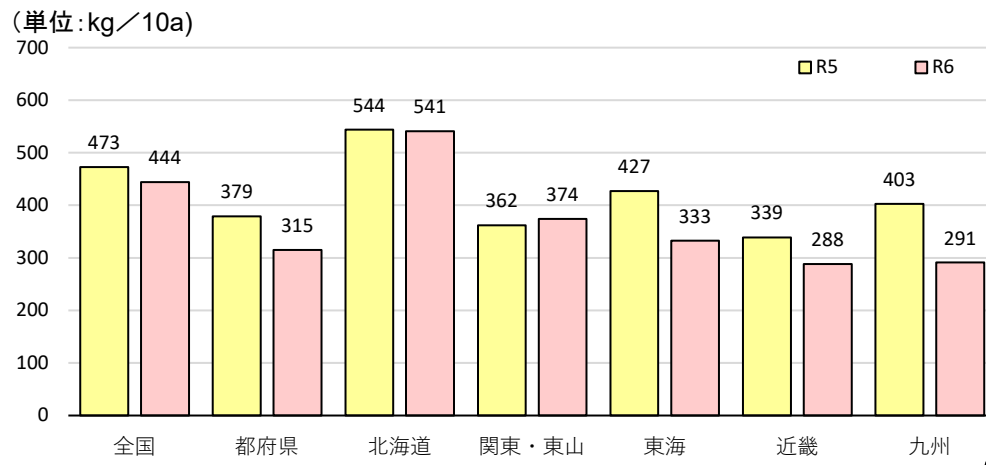
資料：作物統計

○ 小麦、大麦・はだか麦の単収の推移



資料：作物統計

○ 主な地域の小麦の単収（R5、R6年産）



資料：作物統計

麦の生産者数・作付規模

- 麦の作付経営体数は、直近10年間で約 3 割減少し、小麦は3.1万経営体、大麦では1.3万経営体となった。
- 一方で、**1 経営体当たりの作付面積は、小麦で1.5 倍、大麦で1.6 倍に拡大している。**

○ 麦の作付経営体数の推移

(単位：千経営体)

	H12	H17	H22	H27	R2
販売目的の農業経営体数	2,337	1,963	1,631	1,330	1,028
うち小麦作付経営体数	91	86	46	38	31
うち大麦作付経営体数	40	35	19	15	13

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体数と作付面積

注：平成17年までは販売農家

○ H22年とR2年の作付経営体数、作付面積の比較

		H22	H27	R2	R2/H22
小麦	作付経営体数(経営体)	46,202	37,694	30,976	67%
	作付面積 (ha)	202,844	207,149	208,664	103%
	1 経営体当たり面積 (ha)	4.4	5.5	6.7	153%
大麦	作付経営体数(経営体)	19,372	15,192	13,275	69%
	作付面積 (ha)	56,763	55,925	60,974	107%
	1 経営体当たり面積 (ha)	2.9	3.7	4.6	157%

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体と作付面積

○ 地域別小麦作付経営体数と作付面積 (R2)

	作付経営体数 (経営体)		作付面積 (ha)		一経営体 当たり面積 (ha)
北海道	12,261	40%	119,179	57%	9.7
都府県	18,715	60%	89,485	43%	4.8
東北	1,624	5%	6,628	3%	4.1
関東・東山	5,402	17%	20,703	10%	3.8
北陸	228	1%	508	0%	2.2
東海	2,517	8%	15,303	7%	6.1
近畿	2,174	7%	8,563	4%	3.9
中国	714	2%	2,418	1%	3.4
四国	610	2%	2,407	1%	3.9
九州	5,437	18%	32,941	16%	6.1
沖縄	9	0%	14	0%	1.6
計	30,976	100%	208,664	100%	6.7

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体と作付面積

○ 地域別大麦作付経営体数と作付面積 (R2)

	作付経営体数 (経営体)		作付面積 (ha)		一経営体 当たり面積 (ha)
北海道	431	3%	1,885	3%	4.4
都府県	12,844	97%	59,090	97%	4.6
東北	196	1%	1,316	2%	6.7
関東・東山	4,397	33%	16,258	27%	3.7
北陸	1,788	13%	9,123	15%	5.1
東海	486	4%	737	1%	1.5
近畿	436	3%	1,731	3%	4.0
中国	779	6%	4,123	7%	5.3
四国	717	5%	2,870	5%	4.0
九州	4,044	30%	22,930	38%	5.7
沖縄	1	0%	1	0%	1.0
計	13,275	100%	60,975	100%	4.6

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体と作付面積

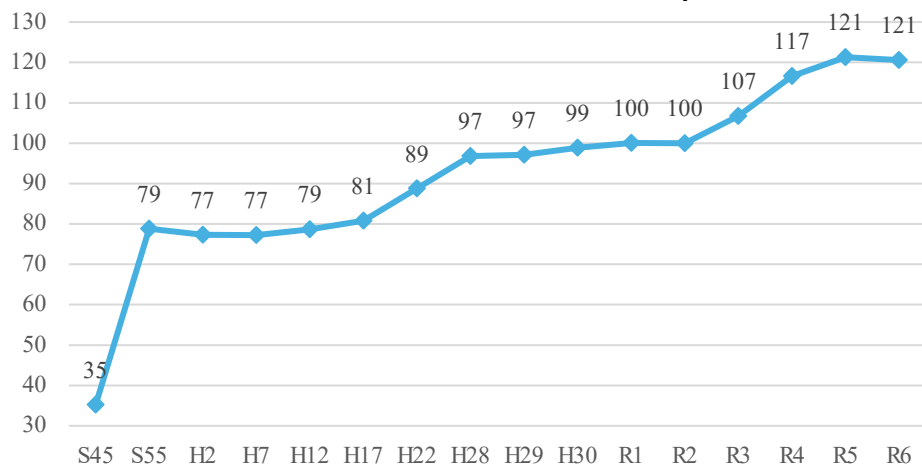
小麦の生産費

- 小麦の10a当たり生産費は6～7万円台で推移している。
- **労働時間の短縮により労働費は減少傾向にあるものの、肥料費や賃借料の上昇により物財費は増加傾向にある。**

区 分	10a当たり全算入生産費			全算入生産費 (60kg当たり)	10a当たり労働 時間	10a当たり主産 物数量(kg)	1経営体当たり 作付面積(ha)	参考(作物統計)	
	(円)	うち物財費	うち労働費					作付面積(ha)	収穫量(t)
H2年産	64,679	39,924	10,454	9,624	8.59	403	1.31	260,400	951,500
H7年産	62,462	38,473	10,848	10,757	6.54	349	1.71	151,300	443,600
H12年産	62,359	39,484	9,997	9,065	6.14	413	2.08	236,600	688,200
H17年産	60,941	41,280	8,606	8,256	5.59	441	2.64	268,300	874,700
H22年産	58,415	43,618	5,695	11,243	3.68	313	6.75	206,900	571,300
H27年産	63,764	50,063	5,784	7,023	3.66	545	7.37	213,100	1,004,000
H30年産	61,041	47,242	5,866	9,572	3.44	383	7.83	211,900	764,900
R1年産	67,426	52,065	6,332	7,465	3.55	542	7.99	211,600	1,037,000
R2年産	67,348	52,811	6,281	8,180	3.50	495	8.13	212,600	949,300
R3年産	67,967	53,779	5,959	7,258	3.43	562	8.65	222,000	1,097,000
R4年産	69,551	55,151	5,935	8,804	3.41	475	8.79	227,300	993,500
R5年産	74,230	60,334	5,826	8,638	3.25	516	9.27	231,700	1,094,000
R6年産(概算)	73,670	59,327	6,102	8,722	3.33	507	9.27	231,800	1,029,000

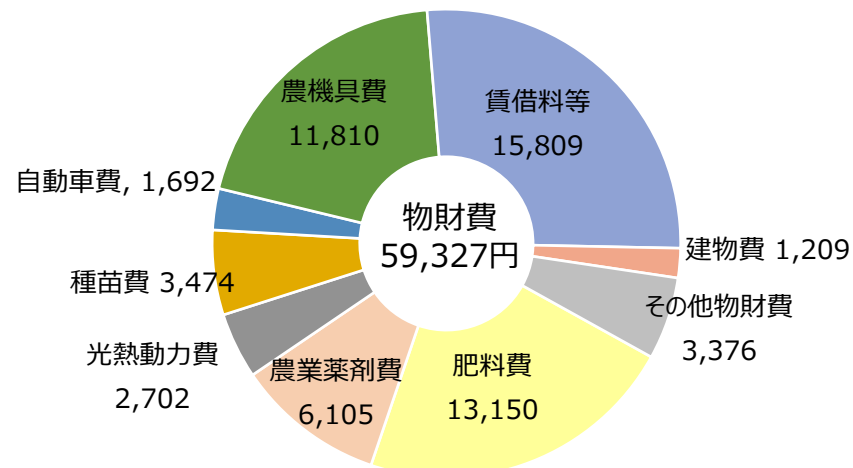
資料：農業経営統計調査 麦類生産費調査対象農家の生産概況・経営概況（調査対象経営体は小麦を10a以上作付けし、販売する個別経営体）

○ 農業生産資材価格指数の推移（R2:100）



資料：農産物価統計調査

○ 小麦の物財費の内訳（10a当たり R6年産概算）



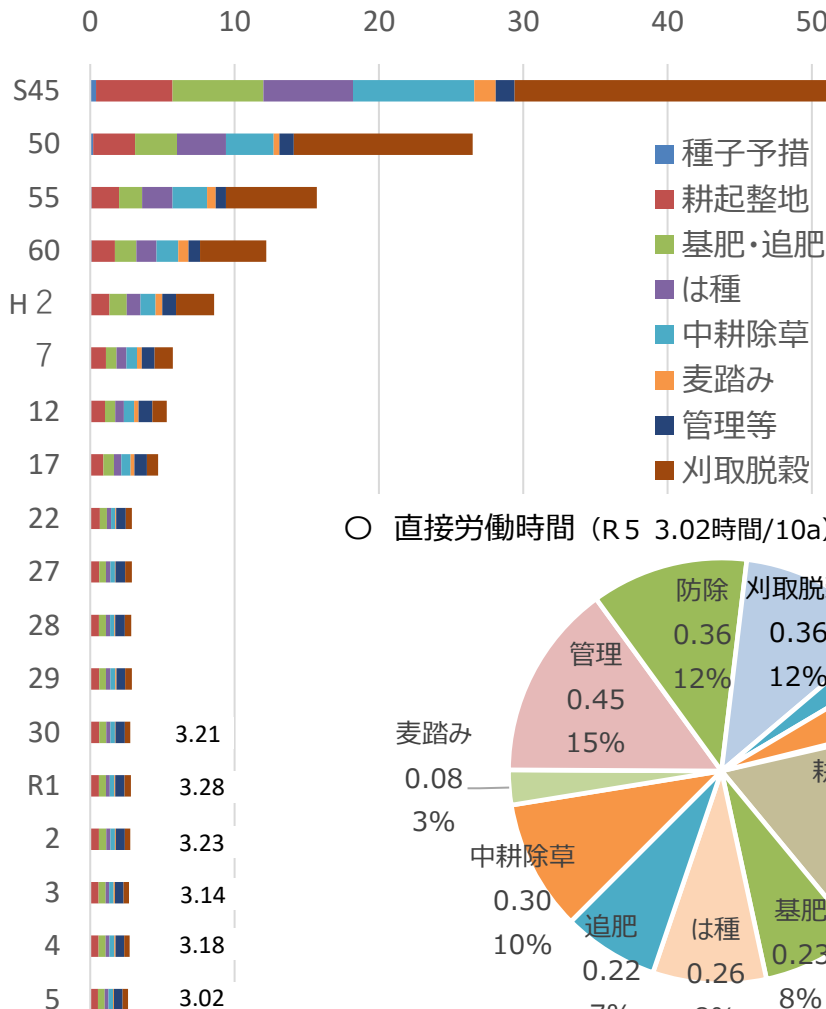
資料：農業経営統計調査 麦類生産費

小麦の10a当たりの労働時間

- 小麦の10a当たり作業時間は作業の機械化の進展により大きく減少している。
- 担い手への集積が進んでおり、**10ha以上の経営規模の作付シェアは64%**（R2）まで増加した。
- 大規模層への集積が急速に進展する一方で、農地の分散による作業負担の増加といった弊害が発生している。

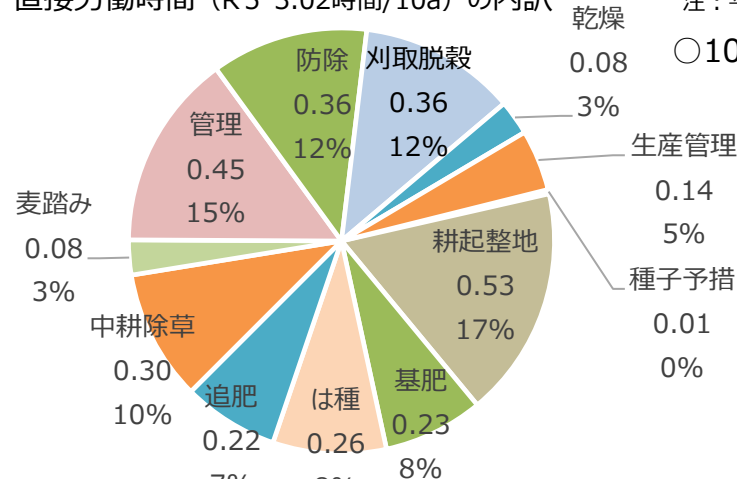
○小麦の10 a 当たりの直接労働時間の推移（全国平均）

（単位：時間）



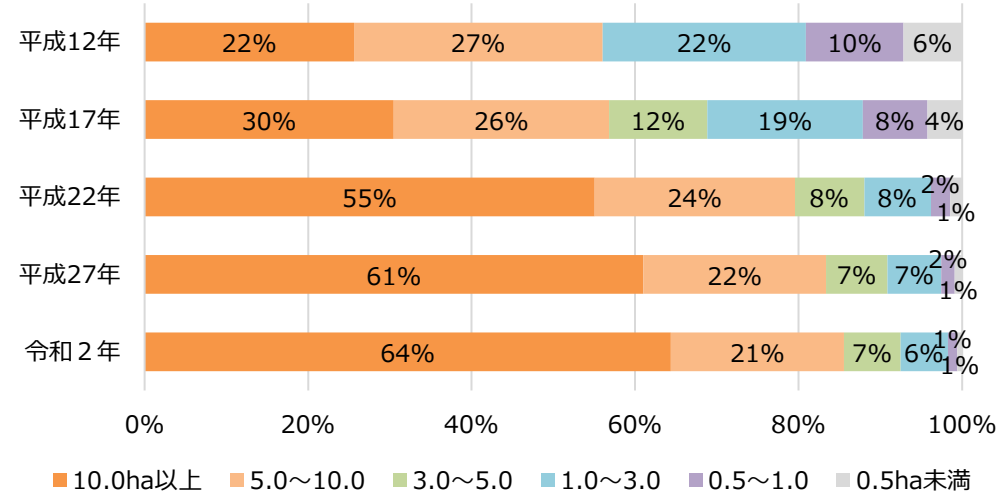
資料：農業経営統計調査

○ 直接労働時間（R5 3.02時間/10a）の内訳



資料：農業経営統計調査

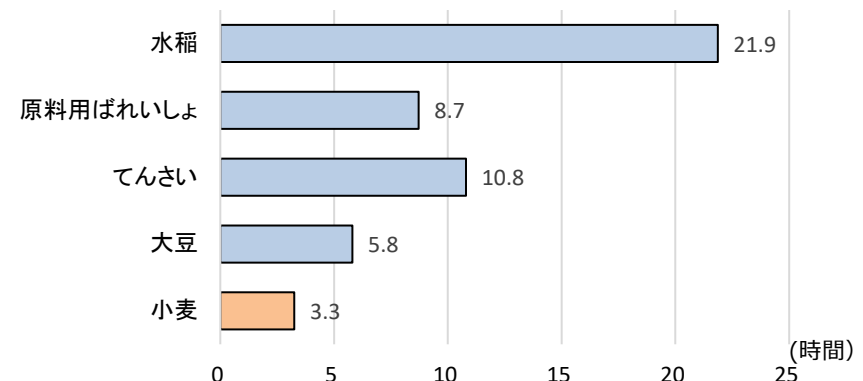
○経営規模別作付面積のシェアの推移



資料：農林業センサス

注：平成17年までは販売農家、平成22年からは経営体の規模別作付面積のシェアの推移

○10a当たり労働時間（令和5年産）



資料：農産物生産費統計